

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400184	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 たま南		
所在地	(〒214-0036) 川崎市多摩区南生田4-25-16		
サービス種別 定員等	■ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
	□ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

花物語 たま南は、小田急線百合ヶ丘駅から、バスで10分程度に位置する施設で、バス停餅坂より徒歩2分程度に位置する施設です。また、閑静な住宅街の中に、ひっそりとたたずみ、地域の中に溶け込んでいます。 平成23年12月1日に認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の併設施設として開設しました。利用者様が「自分らしく」過ごしていただけるを目指し、いつまでも、楽しく、笑顔で、生きがいのある生活を送っていただけるよう支援いたします。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年10月25日	評価機関 評価決定日	平成26年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【概要】 当事業所は、小田急線百合ヶ丘駅からバスに10分乗車し、3分歩いた閑静な住宅街にある。県内及び周辺都市に高齢者介護の福祉施設を多数持つ運営法人の経営する開設2年、実働1年未満の事業所である。同敷地内のグループホームと一体化した建物であり、防災訓練や各種イベントは合同で企画し、効率的な活動を展開している。管理者はグループホームと兼任で「利用者及び職員の人々に合う生活を守る」という方針で運営にあたっている。「明るく・安心・愛情」という理念を日々の介護の原点とし職員への周知徹底を図り、利用者と職員が明るい顔で会話し笑い声が響く環境を作りあげている。 【運営に関する職員の意見の反映】 職員の気づきや意見、提案は、月1回開催のグループホームと合同で行う全体職員会や事業所としてのフロアミーティング、朝・夕の申し送り、業務の中で日常的にあり、皆で検討・相談しながら速やかに改善や実行に結び付けている。利用者の受け入れについても事前に相談し、職員の意見を踏まえううえで準備を進めている。設備や環境の改善、新しいレクリエーションやイベントの企画、アイデアが提案されている。3ヶ月に1回管理者との個人面談を行い、介護への課題や職員間の連携、個人的な相談ことなどを相談し、意見を運営に反映している。 【パンフレットや新聞、ホームページでの活き活きとした事業所紹介】 「小規模多機能居宅介護支援ってどんなことが出来るの」「困ったことを丸ごと解決」等と書かれたパンフレットでは、分かり易い言葉や写真、楽しい絵を用い克明にサービス内容を説明している。ホームページでは通い、泊り、訪問の各サービスや年間のイベント、1日のプログラムなどを紹介している。「たまみ新聞」では利用者が活き活きと活動する姿を写真で紹介するなど、事業所のサービス状況に関する情報を希望する利用者等が理解し易く楽しめるよう提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 たま南
ユニット名	小規模

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を念頭に置き、利用者様・ご家族様・地域の方々との連携のもと、明るく笑顔あふれるよう、安心して生活できるよう、愛情が感じてもらえるように、施設が利用者様の居場所と感じていただけるよう日々の介護を行なっています。また、ケアの方向性を決めるケアカンファレンスや、全体会議の中で都度、施設理念の共有を図るように職員間へ周知しています。	管理者を中心に職員と話し合い「明るく・安心して・愛情のある、という3つのAを大切にします」という理念を策定している。事業所内に理念を掲示し周知を図り、会議で確認している。利用者に笑顔が見られる。安心して過ごせる環境作りに努め、介護を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の盆踊り大会や敬老会に参加しています。散歩の時には、近隣の方にご挨拶を心がけ、近隣の方からも声をかけてくださいます。	町内会に加入し、盆踊りや敬老会に参加している。散歩の際には近隣や商店の人達と挨拶や会話を楽しんでいる。施設の夏祭りやそうめん流し、健康祭りには近隣住民の参加がある。小学生数名が来訪し、おしゃべりやボール投げを楽しんだ。来月にはボランティアが訪問し、手品や新舞踊を披露する予定になっている。	地域行事への参加や事業所が行う夏祭り、健康祭りなど、地域の方の参加もあり交流を図っています。平均要介護度が1.5という利用者の更なる活動に向けて、学校や保育園・幼稚園との定期的な交流や各種ボランティアを招くなど、積極的な取り組みを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学会や説明会を開催し、近隣の方々に招いて施設の説明と同時に、認知症や介護保険についても説明をしています。また、施設でのイベントに近隣の方をお招きし、その際にも施設の説明や認知症、介護保険についても説明をしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見をもとに、施設建物周辺の花を増やし、レイアウトを変更する等、ご要望を取り入れ検討、実施をしています。また、参加した利用者様からもご意見をいただき話し合いを行っています。	年6回運営推進会議を併設のグループホームと同時に開催し民生委員、近隣住民、家族、利用者が参加している。現状報告、職員異動、今後の予定、イベント・行事を報告している。出席者から、災害時の具体的な対処方法、エンディングノートの作成、新聞発行の提案があり、運営に反映している。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多摩区近隣の地域包括支援センターや、多摩区の高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしたり、相談に乗っていただいたりアドバイスをいただいています。	区高齢支援課や地域包括支援センターを月1回訪問している。活動報告や事例の相談に乗ってもらい、助言を得ている。区北部小規模多機能連絡会の事務局を務め、事例検討や送迎中の緊急連絡等について意見交換し連携を深めている。交番とは挨拶を交わし、消防署から防災訓練で指導を受けている。	
---	---	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている利用者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っていく予定です。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、利用者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。	「高齢者虐待と身体拘束」というテーマで研修や事例検討を行い、身体拘束をしないケアの周知に努めている。各居室やフロアの鍵はかけていないが、玄関ドアについては防犯上の理由から施錠している。利用者が希望すればドアを開けている。玄関ドアの施錠について職員間の話し合いはしているが周知徹底が再度必要。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、事例検討を含め、どのような場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないよう、また各職員同士でケア方法を注意しながら虐待防止への意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や後見制度について話し合っています。また、ご家族からの要望があれば、成年後見の手続きのお手伝いを行ったり、地域包括支援センターにご相談に伺ったりしていきたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご利用いただいています。特に、利用方法に関する疑問を具体的に説明し、小規模の柔軟性をご家族様・ご本人様へお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。また、運営推進会議にも参加していただき、議場にて話し合い、いただいたご意見を随時取り入れています。	利用者は日常生活の中で、家族は面会時や電話で要望・意見を聞いている。気づきボックスを玄関フロアに設置し、月1回開封している。運営推進会議には利用者・家族が出席し意見・要望を発言する機会を設けている。災害時の対応についての堤案があり、職員の動き方や移動の仕方などの災害時緊急マニュアルを作成し、家族にも配布した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。日々のケアやカンファの中で、意見の検討を行いながら、随時取り入れています。	職員からは朝・夕の申し送りや業務の中で、気づきや提案、意見が出され、改善や実行に結びついている。玄関前の階段へのスロープ設置やレクリエーション・体操の提案等が日常的に行われている。3ヶ月に1回管理者との個人面談が行われ、ケアの課題や職員との連携、個人的な相談を受け、意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるかたには、リーダーやその上を目指してもらうよう、伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備してあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や連絡会に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、情報交換やサービスの向上を心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、ご家族やご本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりと、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況や、おかれている環境を把握し、利用者と家族の物理的精神的環境を考慮し、小規模多機能型居宅介護が適切かどうかとも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、GHや、他事業などへの紹介も行っていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、過不足なく必要な分だけの支援を行い、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の商店やスーパーなどで買い物を行なえるよう支援しています。	友人や知人の来訪時には居室やリビングでゆっくり話ができるようにしている。また、家族の理解を取り、友人との散歩や外出の支援をしている。近くの神社へ子どもの頃の郷愁を求めて出かけたり、訪問サービスでは買い物やスーパー等の馴染みの場所に行っている。カラオケやマージャン、囲碁・将棋、編み物など従来からの好きなことを継続する支援をしている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事等、利用者同士の親睦を深めるため合同で行っています。また、良好な関係にあるGHの入居者との交流も心がけています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っています。入院になった際には、お見舞いをすることでより良い関係性が継続できるよう努めていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でのお話や、表情、仕草などからご本人の意向を汲み取っています。アセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事内容を変更したり、お散歩や余暇活動のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	食事や入浴でリラックスした際などに、利用者の想いや意向の把握を行っている。入居時には本人宅を訪問し、生活状況を把握している。利用者の表情や行動、言葉から気づきを得た時にはアセスメント用紙に記載し、カンファレンスや申し送りで意見を交換しながら本人の意向の確認に努めている。体調不良時には、アセスメントを再確認し本人の気持ちを理解している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前や利用後も、利用していた担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までしてきた家事や趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が継続できるような支援に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングやアセスメントを行う過程で、本人の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員、医療職等からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	「自立を尊重し今までの生活に近づける」ことを介護計画作成の基本にしている。アセスメントは全職員が記入し、利用者・家族の希望、医師・看護師の助言を含め、介護計画に反映している。サービス提供の留意点を記載した小規模多機能居宅介護計画書を作成している。目標に基づく介護を行い、個人記録に記載している。月1回モニタリングを行い、3～6ヶ月の期間内に見直しが随時行われている。		

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、 気づきや工夫を個別記録に記入し、 職員間で情報を共有しながら実践や 介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性、意向を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得て、盆踊り大会や敬老会に参加しています。地域活動への参加等を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また受診時には本人やご家族の意向を十分に聞き取り、必要に応じ情報提供や、職員の付添いも行っています。	全員がかかりつけ医を受診している。受診は原則家族が付き添い、状況により職員が同行する。受診情報は家族から得ている。協力医療機関はあるが、定期的な訪問はない。看護師が週2回健康管理を実施している。健康祭りを2ヶ月に1回行い、希望により身長・体重、体脂肪や骨密度等の測定をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援してる	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際にはお見舞いや家族との連絡を取ることで、本人の状態を把握するよう努めていきます。病院の医療連携室等の相談員の方々と連携を密にして情報の共有に努めていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為、早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。話し合いには、主治医、看護師、介護職員、ご家族等にも参加していただいています。	事業所として指針を定め、入居の際に重度化や看取りに向けて方針を利用者・家族と共有している。看護師による24時間連絡体制があり、医師の協力が得られる医療連携体制がある。職員に向けターミナルケア研修を行っている。在宅での訪問介護や看護を行い、看取りを行った1事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変時の対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に川崎市多摩消防署と連携し、避難訓練、夜間想定の実施を行っています。また、災害時備蓄品も備えています。	夜間想定を含む年2回の防災訓練を併設のグループホームと合同で実施している。消防署員立ち合いの基に、避難・通報・消火等の総合訓練を行った。地域住民の参加もあり、避難した利用者の見守りをお願いしている。備蓄は水・バラエティーセット・懐中電灯等を用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。その方の生活暦や性格を考慮し、その方に合った言葉掛けや対応を心がけ自立支援のもと生活を支えていく事に気をつけています。特に調理に関しては、男性・女性問わずその方らしさが出るので、意識して行なってもらうようにしています。	年間研修計画の中で接遇に関する研修を行い、呼び名を始め接遇の仕方など人権尊重に対する意識を高めている。日常の会議の中で、相手を思いやる心を大切にしたい介護をするよう指導している。排せつへの声かけや入浴時の同性介助、羞恥心への気配り等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共にしています。就寝時間も体調等を考慮し、時間だから寝ていただく等はしておりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいきます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、利用者に確認しながら、調理や片づけができるよう、声掛けし職員と一緒に、準備や調理を行っています。	食材及びメニューは委託業者から取り寄せている。調理・食卓準備・片付けは職員が利用者の力や意欲を見ながら一緒に行っている。季節や利用者の好みに合わせメニュー変更を行い、ちらし寿司やお好み焼きなどを皆で作っている。誕生日を出前の寿司やケーキ、デザートで祝い、外食は月1回、近くのレストランに行っている。職員も一緒に食事をし、明るい言葉や笑いが行き交う食事風景であった。	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、 一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせてご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛けを行っています。	ほぼ全員が自立しており、排泄に関するADLを低下させないよう個人の排泄リズムに注意している。リハビリパンツを使用している方へは、日中は布パンツ、夜はポータブルトイレの使用を試みるなど、自立への取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、随時体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつの工夫を行い、排便コントロールの支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫しています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。また入浴時には肌の露出を最低限に留め、羞恥心に配慮をした対応を行っています。さらに、入浴を楽しめるようその人に応じたお声かけや会話をしています。	基本は週2回、自宅で入浴の出来ない方へは週3回の入浴を実施している。手すりの設置など住宅改修を提案し、在宅で自立した入浴ができるよう支援している。体調の悪い時は清拭や足浴・足湯を行い、清潔を保持している。風呂の湯は一人ひとり入浴後に入れ替え消毒し、好みに合う入浴剤やゆず、菖蒲を季節に応じて入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支援 している	各利用者様が、自由にフロアや、テラスにて過 ごされています。お一人での移動が困難な場合 は、その時の状態観察を行ったり、ご本人に 聞いてから、休息の支援を行なっています。夜 間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支 援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは 主治医へ報告し、連携に努めています。また、 看護師が記載した看護記録の確認、又は、個人 記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、 服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過 ごせるよう支援に努めています。また、台所仕 事が好きな方には、調理や片付け等を職員と一 緒に行なっており、職員から常に感謝の言葉を お伝えしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している	可能な限り外出を支援しています。また訪問に てご自宅近くの地域の商店やスーパーで買い物 や、地域での散歩の支援を行なっています。	天気の良い日はほぼ毎日1～2回、全員が 約20分の散歩をしている。コンビニやド ラッグストア、商店街へ買い物に行っ ている。遠出ドライブとしてお花見、王禅 寺ふるさと公園での自然林浴や紅葉散 策、アジサイ寺、向ヶ丘遊園でのバラ園 見学などがあり、要介護度平均1.5の利用 者の外出活動を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援してい る	金銭管理は主に事務所で行っており、使った額 を請求させていただく立替制度を取っていま す。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の身体状況等に合わせ、お電話を利用できるように支援しております。また、いつでもお手紙のやり取りができるように文字を書く機会を設けたりし、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、近隣の方からいただいた花やインテリアを飾っています。温度や湿度に配慮し、居室にて過ごしている方の状態確認も行っています。また、玄関にはご家族の了承のもと、利用者様の写真を飾り、食堂の壁には利用者様の作品等を飾り、利用者様とご家族や来訪者との会話にもつながっています。	玄関前にはヒノキ造りの足湯がある。1階は共用部分の玄関、廊下を境に事務室があり、平行して居間、和室、キッチンと効率の良い設計である。採光十分で明るいリビングには、利用者の専用物入れがあり、本や裁縫道具を入れている。和室はいつでも横になれるベッドを置いている。壁面には利用者の作品や日常の活動の写真を掲示している。随所にグリーンの植樹や生け花、飾り物があり、心安らぐ空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人になりたいときは、ご利用の宿泊室でお過ごしいただく場面もあります。また、気分を変えるため車での外出など、遊びに行き、気分転換を図っています。利用者様各々が職員介助のもと、宿泊室と食堂への移動を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊の回数が多い方は、馴染みの家具やクッションなどお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	居室は2階に7部屋あり、現在入居している居室には表札が掛けられている。整理用ラック、照明器具、布団、ベッド、エアコン、カーテンは事業所で常設しており、泊りの利用者は、テレビ、時計、枕など馴染のものを自由に持ちこみ、家族と相談しながら本人の安心できる居室を作っている。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各宿泊室や浴室、トイレ等、ご自身でもわかるように貼紙をし、ご自身での移動を促しています。洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています。		
----	--	--	--	--

目標達成計画

事業所名 花物語会南（小千代）

作成日 平成26年2月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	学校や保育園・幼稚園との定期的な交流を図る。また、ボランティアに属し、継続的に取り組むこと。	ボランティアに属し、長期的に交流を図る。学校等に属し、双方のイベントに参加、招待を受ける。	行事イベントは前もって日程を組み、しっかりと調整をして、その後も定期的に属し、交流を図る。年単位で計画しておく。	2ヶ月～3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。